

平成30年度修学旅行確認事項

1) 集合完了時間〔予定〕7:10

出発時間〔予定〕7:30

※ただし状況に応じて、変更する場合がある。

2) 飛行機への搭乗について

●大と小の荷物を分ける(大荷物は空港カウンターで預け、小荷物は機内持ち込み)

※機内持ち込み用の小荷物に貴重品・常用薬等を入れる。搭乗券をなくさない

3) スキー研修について

●スキー用品(ウェア・ブーツ・帽子・ゴーグル・手袋・板)は一式レンタル。

スキー研修中は写真を撮ってくれる。事故防止のためにも個人的に撮らない。

スキー経験・体力・適性によって班編成し班毎にインストラクターの指示で研修します。

衝突事故や骨折等の怪我を防ぐため、必ずインストラクターの指示に従うこと。

研修中に体調が悪くなったり、怪我をした時はインストラクターに申し出て無理をしない

4) 準備物について

●ブランド物の財布・腕時計など高価で派手なものは持っていない。

●高価なものを持って行って、紛失・破損すると楽しい旅行が台無し。

●所持品には必ず名前を明記。(旅行中は自分の所持品は自分で管理)

準備物一覧表(新しく購入する必要はない)

衣類	移動中	私服で動きやすいもの(スカート・ワンピース・短パンは禁止) 靴底が平らで滑りにくい運動靴等○ ヒールの高いブーツ等は危険なので× *飛行機, バス, 建物内は暖房が良く効くので脱ぎ着しやすい服装
	スキー	アンダーウェア(スキーウェアの下に着る 発熱性下着等が◎) 例) 上→ハイネックシャツ等(保温性・吸汗透湿性に優れた製品) 下→スパッツ, タイツ(保温性・吸汗透湿性に優れた製品) 靴下→スキー用靴下もしくはハイソックス ※厚着しすぎると大量の汗をかく。
その他	防寒着(コート・ジャンパー等), セーター, ベスト, 厚手シャツ, スパッツ マフラー, ネックウォーマー, 手袋, 下着 ホテルでの部屋着としてスエット, ジャージ, 体操服(ホテルの各部屋中のみ)等	
生活用品		携帯電話(緊急連絡用, 傷がつくのが嫌な者はカバーをつける), ハンカチ, ポケットティッシュ, ビニール袋, カイロ ホテルにフェイスタオル・バスタオル・ドライヤー・歯磨きセット等のアメニティ 用品有り(ひげそりはない)
		旅行用キャリーケース, 小さめのバッグ(大荷物1個と小荷物1個) ※大荷物は空港のチェックインカウンターで預けたら, そのままホテルに到着する ため途中で物を取り出すことはできない。小荷物は機内に持ち込む。 修学旅行のしおり・筆記用具(メモ用)
あれば便利なもの	マスク(特にホテルの部屋は乾燥する, のどの乾燥を防ぐ対策を), 日焼け止め, リップクリーム, シップ(筋肉痛), 冷えピタ(発熱時), 救急ばんそうこう(靴 ずれ, 切り傷), 目薬(スキー場は紫外線が強い)	
その他	常備薬(乗り物酔いする人, 持病のある人は必ず持参) 健康保険証またはコピー(貴重品と一緒に) お金(自主研修時の食事, お土産の購入など)	

5) その他

●キャンセルについて…1月1日からキャンセル料が発生する。

※インフルエンザやノロウイルス等による感染性胃腸炎になると出席停止となり、出席停止期間中は旅行に行けない→キャンセル料金を支払い旅行をキャンセル

●インフルエンザ発症の場合

1月16日(水)発症→最短でも1月21日(月)まで出席停止＝参加不可(キャンセル)

旅行中に37度以上の発熱がある場合は医療機関を受診し、インフルエンザ等と診断された場合集団での行動を打ち切り別の部屋で隔離療養して保護者に迎えを依頼します。迎えができない場合は、旅行団から離れて回復するまで現地滞在し、遅れて帰校することもあります。

医療機関受診時の医療費は生徒個人負担ですがスポーツ振興センター災害給付の対象になります。受診時にタクシー等利用した場合の交通費は完全個人負担です。